

第2回5G×ICTインフラ利活用検討会の主な意見等

1 開催日時および出席者

- ①日 時 令和元年11月18日(月) 16:00~17:15
- ②出席者 東京大学森川博之教授(座長)など計18名(うち1名代理出席)

2 意見交換の概要

- ・今後、地域課題を解決していく中で様々な機関と連携しながらこうした技術を活用するに当たり、県にその分野に関して情報収集する職員がいて、市町村がそこに相談すると適切なアドバイスをもらえるようになればよい。
- ・現在、5GやICTを活用した県内他地域でも横展開できるような取組みについて検討中。県にも今後情報提供していくので連携していきたい。
- ・実証実験について検討する際には、事業の継続性を担保するためにも誰が費用負担していくのかということを最初の段階から考慮すべき。
- ・今後、様々に進められる事業について、取組みの横展開を進めるとともに、それぞれの取組みについて集約・総括し、県の取組みとして同じ方向を向くように交通整理する場の設置が必要ではないか。
- ・これから高齢化が進む中での5Gの利活用を考えた場合に興味があるのは「高齢者向けのeスポーツ」。また、多額の予算を投入するのであれば、たくさんの人に喜んでももらえる仕組みづくりが必要。
- ・富山県はシニアの方々が集まって何かをする流れがすでにあるので、それをうまく利用しながらeスポーツのシニア展開をやっていくとよい。
- ・農業分野における取組みのツールについて5Gだけに限定してしまうと門戸が狭まってしまうおそれがある。ICTインフラを活用した取組み全般にも目を広げていけば、県内農業でもここ1、2年の間にも活用していくことができるのではないか。
- ・富山らしい課題、富山の課題感という視点からどの分野に着目していくか。また、その際には、他の自治体はどういった取組みをしようとしているかを把握するとともに、そことの連携ができないかということも検討すべき。
- ・「5Gでないとできないこと」を考えるとなかなか先に進まない。今のLTE技術でも解決できる課題をピックアップしたうえで、5Gであればもっとスムーズに解決できるというふうに気楽に考えるのが重要。また、「人手がかかっているところをデジタル化していく」やり方が取組みやすく分かりやすい。
- ・5Gは「与えられるもの」ではなく「みんなで作り上げていくもの」である。いろいろな関係者が集まってアイデアを持ち寄って意見を戦わせることが重要。このような検討会がある富山県がそれを強みとしていけばよい。